

# 世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2014.9.5 No. 205 連絡先 FAX 042-555-1911



## 米軍横暴！ 28日夜通告、29日午後3時 MV22オスプレイ2機飛来



8月28日（木）、米側から、「米海兵隊のMV22オスプレイ2機が、8月29日（金）に横田飛行場へ飛来し、同月31日（日）に横田飛行場において総合防災訓練として、物資の積み込み及び空輸のための飛行を行う可能性がある」と情報がありました。（以下、防衛省職員による目視時間）

29日、普天間基地から岩国基地を經由し、オスプレイは、午後2時52分と同55分に横田基地に飛来しました。

左上写真の、赤い尾翼に竜（ドラゴン）の字のオスプレイは、隊長機（No.は00）です。（もう1機のNo.は09）

オスプレイは下が見えないので、着陸時には前方の窓から首を出し、着陸地点を見つつ着陸です（左写真）。



## 8月31日 オスプレイ2機 飛行・訓練

31日、午後0時35分オスプレイ2機は横田基地から北に向かって滑走しながら飛び立ちました（左写真）。

午後1時30分、33分に、南側からヘリモードで着陸。

さらに、午後1時51分オスプレイ1機が横田基地を離陸し、瑞穂町・羽村市・福生市・昭島市の人口密集地上空を飛行（左下写真）、午後1時56分着陸しました。



横田基地周辺市町基地対策連絡会は、MV22オスプレイの横田基地における訓練について、9月1日、外務省、防衛省及び北関東防衛局に対し、「国の責任において、地元自治体や周辺住民に対して正確かつ詳細な情報提供を行い、基地周辺住民の安全性への懸念が払拭されないまま横田基地への飛来や訓練が行われること」によろ、米国に働きかけること」を強く要請をしました。



## オスプレイ帰れ！

### 8. 31抗議集会

怒りの抗議集会には約150名が参加しました。監視中、延3機のオスプレイの飛行を目撃しました。



## 8月31日 オスプレイ1機は 記者を搭乗させ大島方面へ (No. 205 の裏面)

9月1日付朝日新聞や毎日新聞などで、オスプレイが何処に行っていたのか分かりました。

1機は米軍単独の訓練で荷物を積み込み、1機は新聞記者らを搭乗させてもう1機のオスプレイの飛行を見学させながら、伊豆大島の上空まで約1時間で往復したようです。

毎日新聞は体験搭乗の記事を載せた後に「報道機関を対象にした体験搭乗には、オスプレイの安全性への理解を広めたいとの米軍の狙いがある。普天間飛行場に初めて配備した2012年秋にも、体験搭乗の機会を設けた。7月15日に初めて東日本へ飛来して以来、米軍はオスプレイの運用を全国に拡大させている。沖縄の基地負担軽減をアピールし、普天間の県内移設に向けて沖縄県知事選(11月)を有利に進めたいとの日米両政府の思惑が背景にある。」と書いています。

さらに、「米軍は8月下旬、オスプレイの離着陸訓練を初めて東富士演習場(静岡県御殿場市など)で実施した。しかし9月4～5日に同演習場で再度訓練を実施しようとしたところ、周辺自治体から『立て続けに行われると問題点を指摘する間もない』などと難色を示され、中止にした。」と、9月4～5日の横田基地への飛来も中止になった理由を書いています。

横田基地広報副部長のベイリー中尉は、オスプレイに対する基地周辺住民の不安について「払



拭されていないことは承知している。懸念を考慮しながら地元との絆を深めていきたい」と話したそうです。「オスプレイは危険、アメリカに帰れ!」の声をもっと強めましょう。

9月2日、10時08分 オスプレイ2機がほぼ同時に横田基地を離陸しました。(写真は離陸する隊長機のオスプレイ)

### 「米軍の運用」秘密保護法の対象に！今秋にも閣議決定しようとしている

安倍政権が秘密保護法の年内施行に向けて今秋にも閣議決定しようとしている運用基準(素案)の中には、秘密指定の対象項目として「米軍の運用」や「米軍の防衛力の整備」が挿入されています。政府はその理由として「自衛隊が米軍と共同・連携することを表したもの」と明言。秘密保護法を「戦争する国」づくりのために、日米の軍事戦略や情報を共有し秘密事項にしようとしているのです。今も「米軍の運用」は身勝手。秘密になったらどうなるのか。



### 沖縄 疎開学童ら犠牲「対馬丸」撃沈70年

太平洋戦争中の1944年8月21日に沖縄から長崎へ向かった学童疎開船「対馬丸」が、22日夜に鹿児島県の悪石島沖で米潜水艦の魚雷攻撃を受け沈没してから70年です。

国民学校の学童や教員、一般疎開者ら乗船者1788人のうち1485人が死亡。犠牲者のうち学童は780人で、6歳以下の子どもを含めると1000人余の幼い命が犠牲になりました。この時、学童疎開船の護衛艦は、燃える対馬丸を見捨てて離れていきました。この事件は箝口令がしかれ肉親を失なった人々、何とか生き延びた人々にとっても、ひどい仕打ちでした。対馬丸記念館は、22日で開館から10年を迎えました。沖縄関係の戦時遭難船舶は30隻ほどあるといわれますが、軍事機密とされていたため実態は不明の部分が多い。対馬丸の他の犠牲者を弔うため「海鳴りの像」が、「小桜の塔」の近くに建立されています。沖縄訪問の折にはお立ち寄りを!

☆ 内藤功氏の8.23記念講演を『YouTube 内藤 横田』で検索し、ご覧下さい。